

醫學博士森林太郎氏傍訓

其六
其四
醫學博士森林太郎氏傍訓

傍訓救急法及衛生法大意

25
101

傍訓救急法及衛生法大意

第一編 救急法大意	其九 咬傷、螫傷、其十 中毒	三九
第一章 創傷	第四章 人工呼吸法	三九
其一 創傷ノ處置、繃帶包	第二章 衛生法大意	三九
其二 止血	第一章 傳染病ノ豫防	四三
第三章 三角巾	第二章 傳染病ノ種類	四七
第三章 急病	其一 虎列刺	四八
其一 卒倒	其二 赤痢	五〇
其二 火傷、電氣傷	其三 腸窒扶私	五一
其三 嘔病	其四 「ヘスト」	五三
其四 凍傷、其五 凍互假死	其五 麻刺里亞	五五
其六 溺水	其六 結核	五六
其七 窒息	其七 花柳病	五八
其八 埋沒假死	其八 「トラホーム」	五九
	第三章 雜件	六一

特 53
271

傍訓救急法及衛生法大意

第一編 救急法大意

第一章 創傷

其一 創傷ノ處置、繃帶包

第一 創傷ノ處置、繃帶包
 入ルニ因ル病原菌ハ空氣中ニ雜レル塵ニ附キ居ルカ故ニ創ヲ開キ置ケハ塵ト共ニ降りテ之ニ附ク手ノ指モ消毒ヲ經ルニアラテハ病原菌ノ附キ居ルコトヲ免レス故ニ創ニ指ノ觸ルルハ害アリ



紙、手巾其他ノ布片モ亦病原菌附キ居ルコトアルヲ以テ創ニ觸レシムヘカラス
 創ヲ拭ヒ淨メ又洗ヒ淨メント欲スルトキハ却テ
 之カ爲ニ病原菌ヲ創ニ入ラシムル虞アリ故ニ拭
 ヒ洗フコトヲ禁ス
 彈丸、衣片ノ如キ異物創口ニ見ハルトモ拔キ除
 カント欲スルコト勿レ創ニ血ノ凝リ著キタルト
 キハ之ヲ剥キ取ルコト勿レ

第一 繃帶ハ衛生部員ノ施スヘキモノトス衛生部

員在ラサルトキハ擔架卒若ハ補助擔架卒之ヲ施
 ス以上ノモノ附近ニアラサルトキハ下士卒創ヲ
 露シ繃帶包モテ繃帶ヲ施スコトヲ得
 第二 創ヲ露スニハ創部ノ溫存ヲ要ス溫存トハイ
 タハルナリ

衣ヲ脱クニハ健側ヨリシ再ヒ著ルニハ創側ヨリ
 シ以テ創ヲ溫存スヘシ
 襦袢ハ翻轉スヘシ
 袴、袴下ハ左右同時ニ徐ニ引キテ脱カシムヘシ

靴ヲ脱カシムルトキハ一手ヲ靴ノ踵ニ掛クヘシ
袖、袴、襦袢、袴下、靴ハ要スルトキハ截リ開
キ又ハ縫目ニ沿ヒテ解クコトヲ得
血ニ塗レ若ハ汚レタル被服ノ一部ハ創ノ周圍ヨ
リ除キ去ルコトヲ得

第四 繙帶包ハ三角巾一枚、昇汞「ガーゼ」四枚、
「ガーゼ」包紙二枚及被包布一枚ヨリ成ル
繙帶包ハ疊ミタル「ガーゼ」二枚宛ヲ包紙ニテ包
ミ其ノ二包ヲ疊ミタル三角巾ニ挿ミ此ノ三角巾

ヲ被包布ニテ包ミ縫ヒ封緘紙ヲ貼リテアリ

繙帶包ハ衣ノ左裾裏ニ納レアリ

第五 繙帶包ヲ用井ルニハ被包布ヲ解キ包紙ヲ破
リ「ガーゼ」ヲ兩指ニテ撮ミ物ニ觸レサルヤウ
「ガーゼ」ヲ開キ指ノ觸レサル處ヲ創ニ當テ殘レ
ル「ガーゼ」ヲ其ノ上ニ疊ネ下ニ示ス如ク三角巾
ニテ卷クヘシ
一度開キタル繙帶包ノ中ノ「ガーゼ」ハ一時ニ使
ヒ盡スヲ要ス被包布及包紙ハ創ニ用井サルモノ

トス

創口ニ箇所アラハ「ガーゼ」一包宛ニ箇所以上アラハ一枚宛用井殘レル「ガーゼ」ハ重キ創口ニ當ツヘシ

上肢ニ繃帶ヲ施シタルトキハ衣ノ鈕ヲ外シ手ヲ懷ニ入レ又ハ下ニ示ス如ク前膊ヲ胸ノ前ニ吊リテ支フヘシ

第六 上肢又ハ下肢ノ骨折レタル徴ハ手足ノ位置常態ニ變リ形ヲ變シ短クナリ曲リテ角ヲ爲シ痛

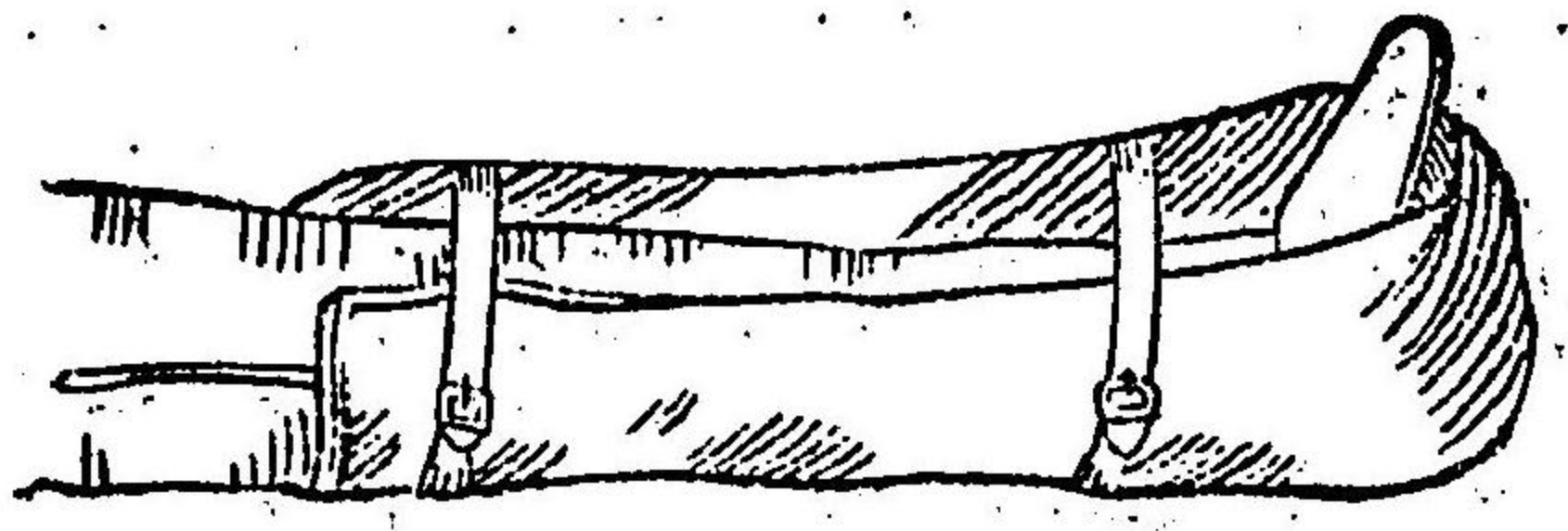
甚シクシテ腫レ居ルニテ知ルヘシ又患者ノ自ラ手足ヲ動スコト能ハス之ヲ動サントスルトキハ劇シキ痛ヲ覺ユルニテ知ルヘシ
骨ノ折レタル處ノ皮ニ創アラハ其ノ創ニ觸ルヘカラサルハ勿論折レタリヤ否ヤヲ知ラント欲シテ傷キタル手足ヲ動カシ折レタル骨端ニ軋音ヲ生セシメ又ハ曲リタルヲ直サント欲スルコトハ之ヲ嚴禁ス

第七 上肢又ハ下肢ノ骨ノ折レタルニ補助擔架卒

等^フ在^アラサルトキハ四人^ニニテ^{ホウタイ}繙帶ヲ^{ホドコ}施スコトヲ得^ツ
 甲^{カウ}ハ創^{キズ}ヨリ上^{ウヘ}ヲ持^モチ乙^{オウ}ハ創^{キズ}ヨリ下^{シタ}ヲ持^モチ丙^{ヘイ}ヲシ^シ
 テ支^{ササ}ヘシメ徐^{シヅカ}ニ引^ヒキツツ擡^{モタ}ケ舉^アクヘシ
 第二^{ダイ}ニ依^ヨリ繙帶^{ホウタイ}ヲ要^{エウ}スルトキハ創^{キズ}ヲ露^{アラハ}スヘキナ
 レトモ之^{コレ}ヲ要^{エウ}セサルトキハ繙帶^{ホウタイ}ニテ支^シ持^チス此^コノ
 繙帶^{ホウタイ}ハ甲^{カウ}乙^{オウ}ノ引^ヒキツツ擡^{モタ}ケ居^チル間^マニ丙^{ヘイ}丁^{テイ}之^{コレ}ヲ施^{ホドコ}
 ス
 肘^{ヒチ}ヨリ上^{ウヘ}又^{マタ}ハ肘^{ヒチ}ヨリ下^{シタ}折^テレタルトキハ簾^{スダレ}新^{アタラ}シ
 キ蓆^{ムシロ}ノ如^{ゴト}キモノニテ卷^マキ又^{マタ}ハ軟^{ヤハラカ}ナルモノヲ當^アテ

タル上^{ウヘ}ニ内^{ウチ}側^{ガハ}ニ短^{ミジカ}キ棒^{ボウ}ノ類^ル、外^{ソト}側^{ガハ}ニ長^{ナガ}キ棒^{ボウ}ノ類^ル
 ヲ當^アテ括^{クワ}リ下^{シモ}ニ示^{シメ}ス如^{ゴト}ク胸^{ムネ}ニ吊^ツリテ支^{ササ}ヘ又^{マタ}健^{ケン}
 側^{ソウ}ノ手^テニテ支^{ササ}ヘ持^モタシムヘシ
 膝^{ヒザ}ノ直^{スグ}上^{ウヘ}又^{マタ}ハ膝^{ヒザ}ヨリ下^{シタ}折^テレタルトキハ單^{タン}ニ長^{ナガ}キ
 藁^{ワラ}束^{マタ}又^{マタ}ハ卷^マキタル外^{ソト}套^{タマフ}ノ一^{タン}端^ツヲ太^{フト}腿^{モモ}ノ中^{チユウ}央^{アウ}ノ内^{ウチ}
 側^{ガハ}ニ當^アテ蹠^{アシノウラ}ニテ折^テリ曲^マケ他^タノ端^{ハシ}ヲ太^{フト}腿^{モモ}ノ中^{チユウ}央^{アウ}ノ
 外^{ソト}側^{ガハ}ニ達^{タツ}セシメ膝^{ヒザ}ノ上^{ウヘ}下^{シタ}ニテ括^{クワ}リ附^ツケ支^{ササ}フルモ
 可^カナリ(第一圖)
 又^{マタ}先^マツ軟^{ヤハラカ}キ物^{モノ}ヲ當^アテタル上^{ウヘ}ニ下^{カシ}肢^シノ内^{ウチ}側^{ガハ}ニ太^{フト}腿^{モモ}

第一圖



ノ中央ニ達スル棒ノ類ヲ當テ外側ニ
 腰ニ達スル棒ノ類ヲ當テ括リ附クハ
 シ
 前項ニ示セルヨリ高キ處ニテ太腿ノ
 骨折レタルトキハ棒ノ類ヲ當ツトモ
 功ナキカ故ニ前項前段ノ處置ニ從ヒ
 安置スヘシ
 棒ノ類ニハ尙、木ノ皮、高粱稈、狹キ板、ブリキ、
 銃劍、軍刀等アリ

其二 止血

第八 血ハ心ノ臟ヨリ動脈ニ通シ動脈ノ枝ニ入り

テ全身ニ瀰リ靜脈ニ合シテ心ノ臟ニ歸ル

動脈淺キ處ニアルトキハ指ニテ脈ヲ觸ル

第九 上肢又ハ下肢ノ創ヨリ血出ツルコト少キト

キ之ヲ擡ケ舉ケ、吊リ又ハ下ヨリ支フルトキハ

血止マル

第一〇 上肢又ハ下肢ヨリ血出ツルコト稍多キニ
 衛生部員、擔架卒等在ラサルトキハ骨ノ折レ居

ラ又限リハ甲其ノ上肢又ハ下肢ヲ豎テ乙「ガーゼ」ヲ創ニ當テ「ガーゼ」ヲ疊ネテ下ニ示ス如ク三角巾ニテ括リ、高ク支持スヘシ

第一

指口ノ近傍、上肢又ハ下肢ヨリ血出ツル

第二圖ノ一

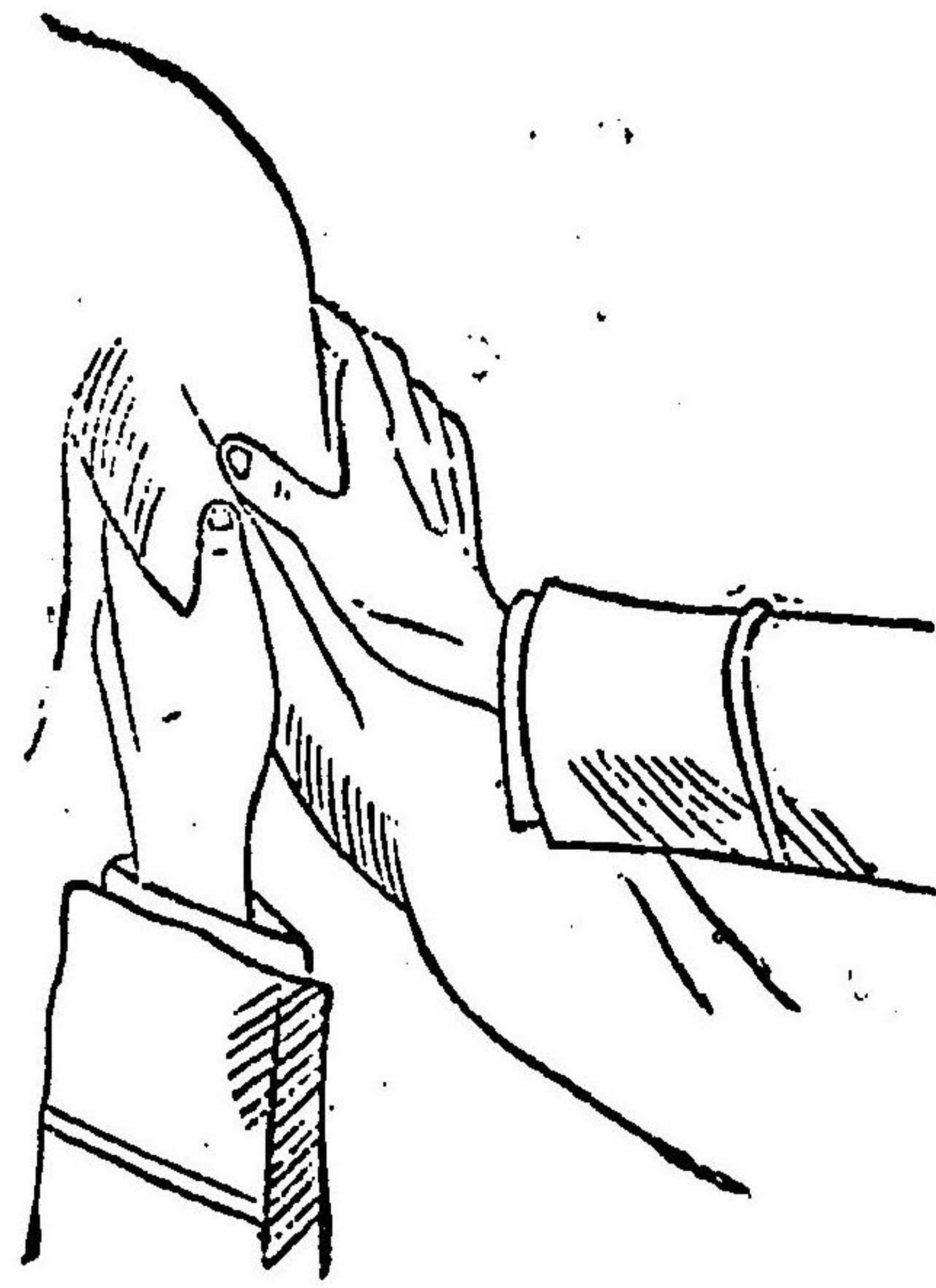


コト甚タ多キニ衛生部員、擔架卒等在ラサルトキハ創ヨリ心ノ臟ニ近キ脈ノアル所ヲ骨ニ向ケ壓シテ

血ヲ止ムヘシ

指ヨリ血出ツルトキハ指ノ根ノ兩側ニ拇指ト示

第二圖ノ二



指トチ當テ強ク撮ムヘシ(第二圖ノ一)

手又ハ前膊ヨリ血出ツルトキハ二ノ腕力瘤ノ内側ナル淺キ溝アル所

ニ兩手ノ拇指ヲ當テ

他ノ指ヲ後ニ廻シテ

握リ拇指モテ強ク壓

スヘシ(第二圖ノ二)

又傷者自ラ之ヲ行フ

二ハ拇指ノ尖ヲ上ニ記セル溝ニ當テ手掌ヲ前ニ

廻シテ握リ拇指ノ尖ニテ壓スヘシ(第三圖)

第三圖



第四圖



臂ノ上部或ハ腋ノ下ヨリ血出ツルトキハ頸ノ下
鎖骨ノ上ノ窪ニ拇指ノ尖ヲ當テ深ク内下方ニ向

第五圖

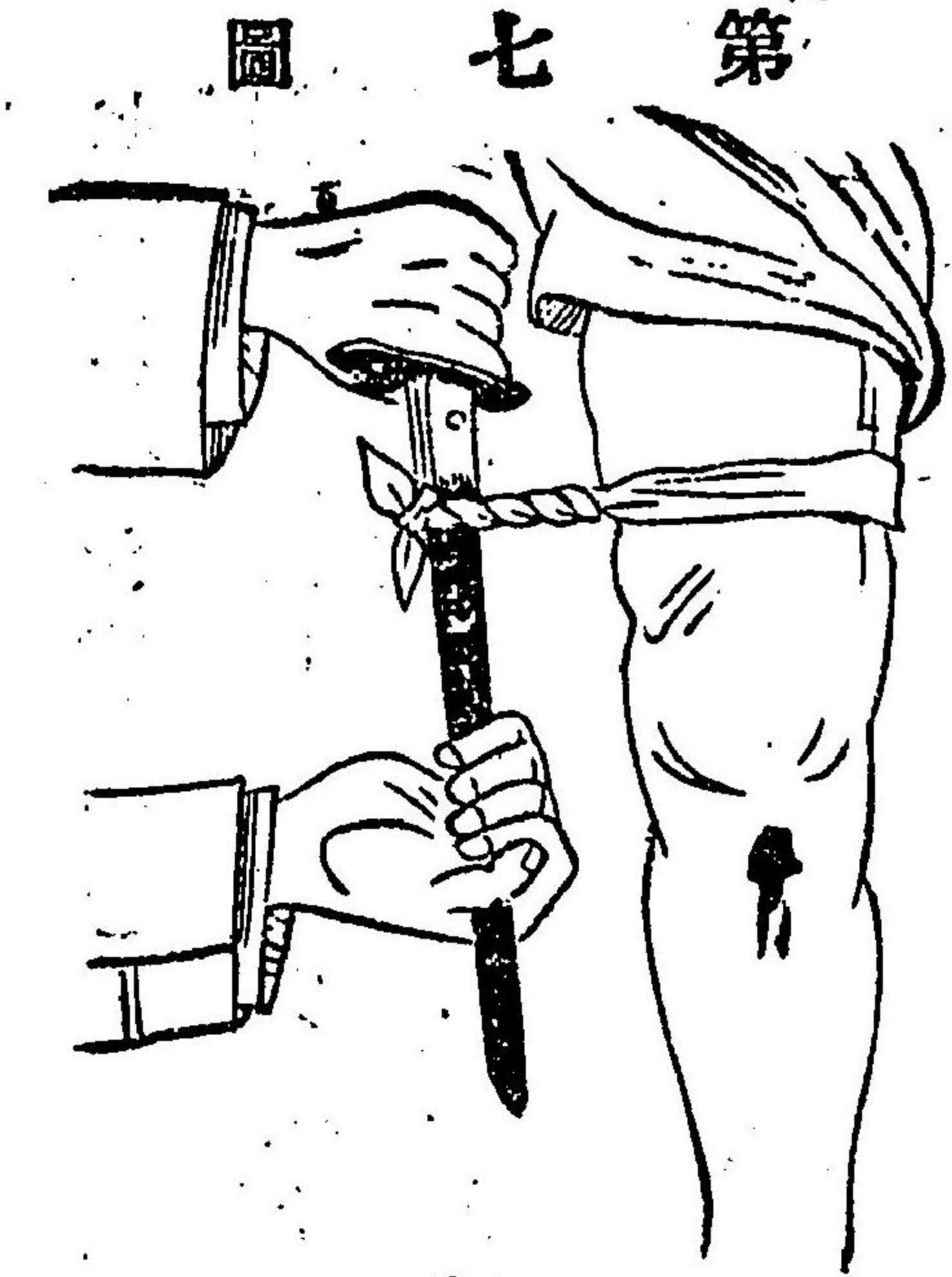


第六圖

ヒ壓スヘシ(第四圖)
口ノ近傍ヨリ血出ツルトキハ下顎骨ノ角ノ少シ
前ヲ骨ニ向ヒテ壓スヘシ(第五圖)

脚ヨリ血出ツルトキハ鼠蹊ノ中央ノ下ニ兩拇指ヲ當テテ壓スヘシ(第六圖)

第一二 上肢又ハ下肢ヨリ血出ツルコト甚タ多キ



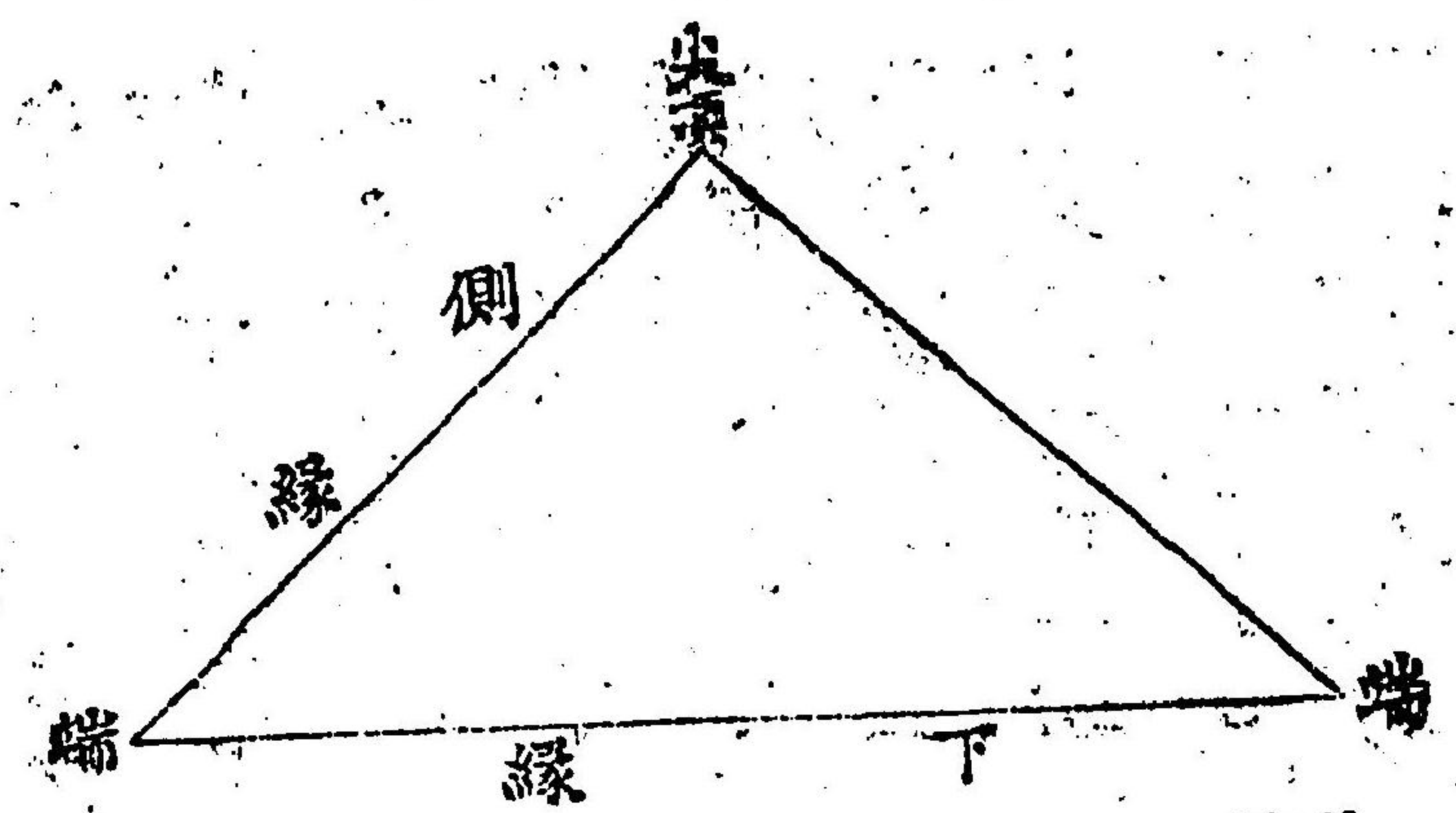
爲指ニテ壓シテ補助擔架卒等ヲ待テトモ至ラサルトキハ創ヨリ上ノ脉ノ上ニ圓キ物ヲ當テ疊ミタル三角巾ノ類ニテ緩ク卷

キ末端ヲ結ヒ之ニ棒ノ類ヲ挟ミ、廻シテ緊メ、血止マルニ至リテ挟ミタル物ノ一端ヲ止メ置クヘシ(第七圖)

此ノ如ク緊メタル處ヨリ下感覺ヲ失ヒ冷ニナリ紫色ヲ帶フルトキハ脉ヲ指ニテ壓シテ卷キタル物ヲ緩メ暫クアリテ再ヒ緊ムヘシ

緊メテヨリ二時間ナルトキハ卷キタル物ヲ除キ若シ尙「ガトゼ」アラハ之ヲ創ニ當テ壓シテ補助擔架卒等ノ至ルヲ待ツヘシ

第一ノ圖八第



第三章 三角巾

第一三 三角巾ハ或ハ開キタ

ル儘用井或ハ尖頂ヨリ順次

ニ疊ミテ巾二寸許ノ帶トナ

シテ用井ルヘシ後ナルヲ疊

三角巾ト名ツタ(第八圖ノ一)

第一四 三角巾ノ卷方ハ身體

ノ部位ニ隨ヒテ異ナリ左ノ

如シ

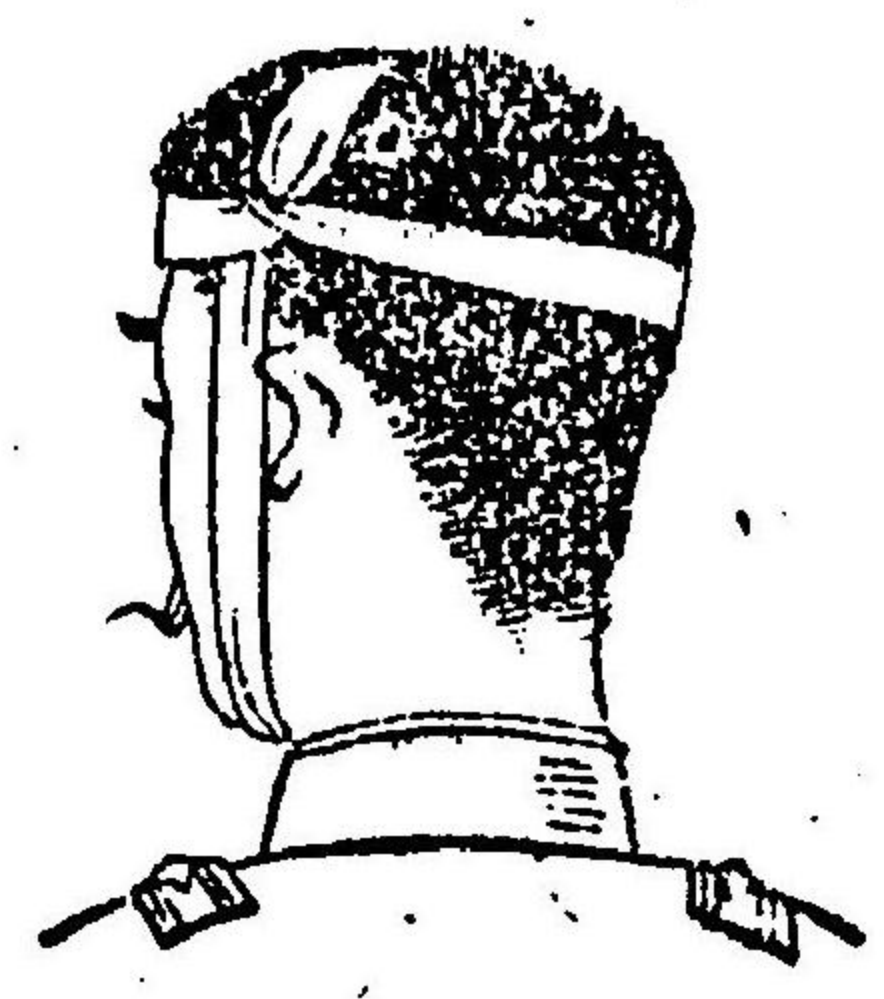
四ノ圖八第



二ノ圖八第



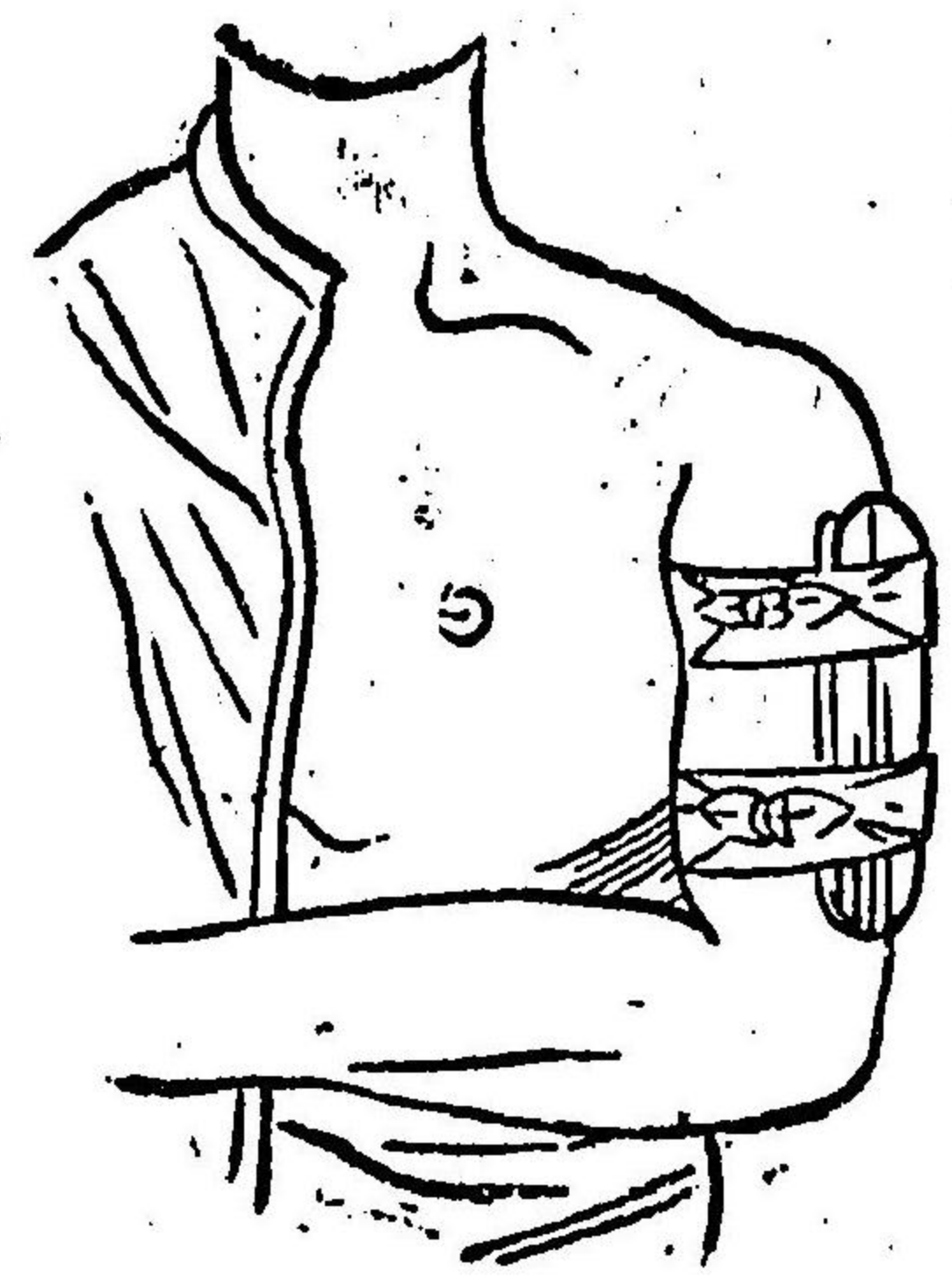
五ノ圖八第



三ノ圖八第



第六ノ圖



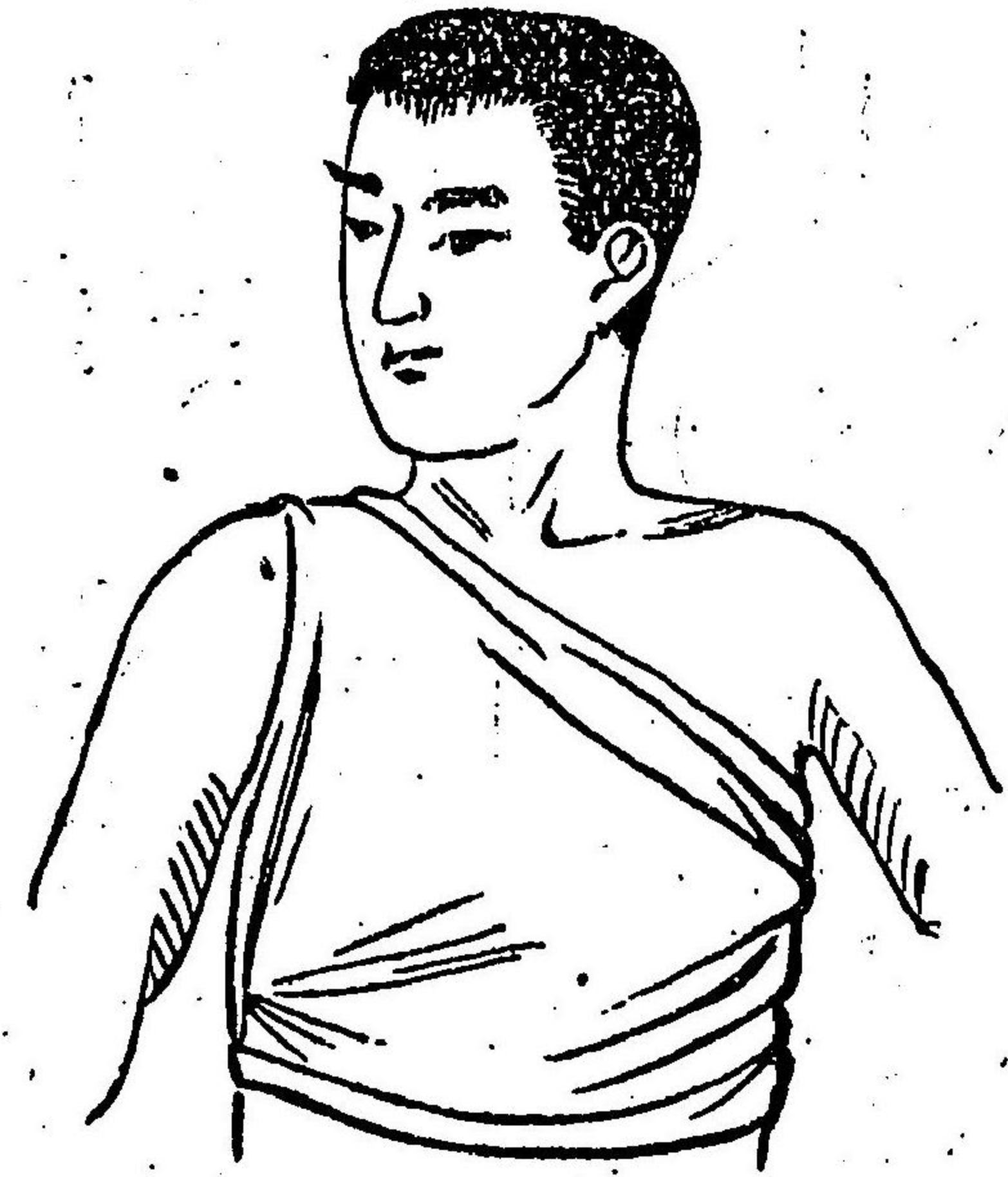
第九圖



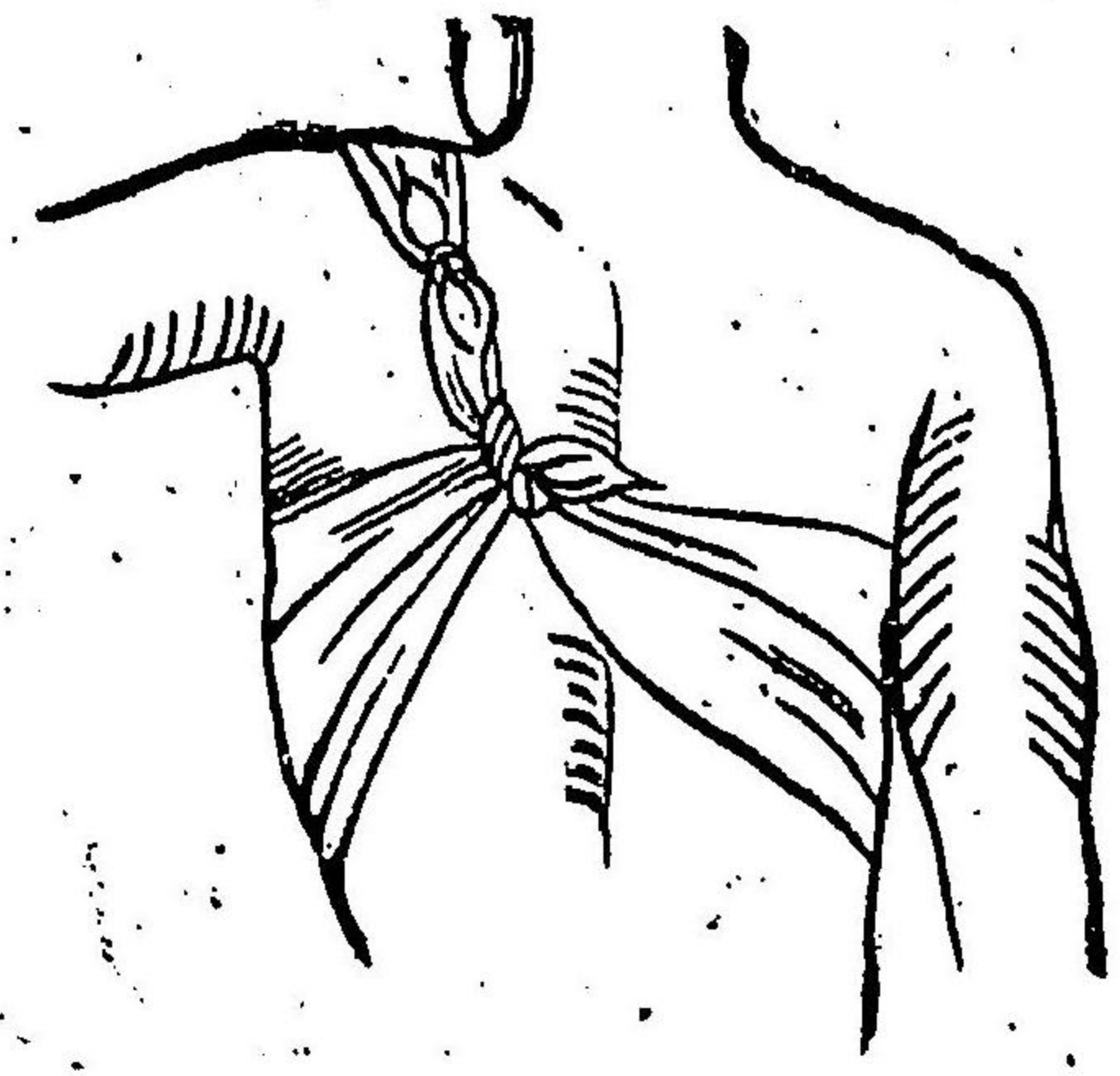
眼、耳、額、頰、頤、手、足ノ小サキ創ヲ卷キ或ハ骨
 ノ折レタルニ棒ノ類ヲ副ヘテ括ルニハ疊三角巾
 ヲ以テス(第八圖ノ二ヨリ六ニ至ル)
 頭ノ創ヲ卷クニハ開キタル儘其ノ中央ヲ頭ノ頂

ニ置キ下縁ヲ額ニ當テ兩端ヲ頭ノ後ニ廻シ額ニ
 戻シ結ヒテ止メ後ニ垂レタル尖頂ヲ折リ反シテ

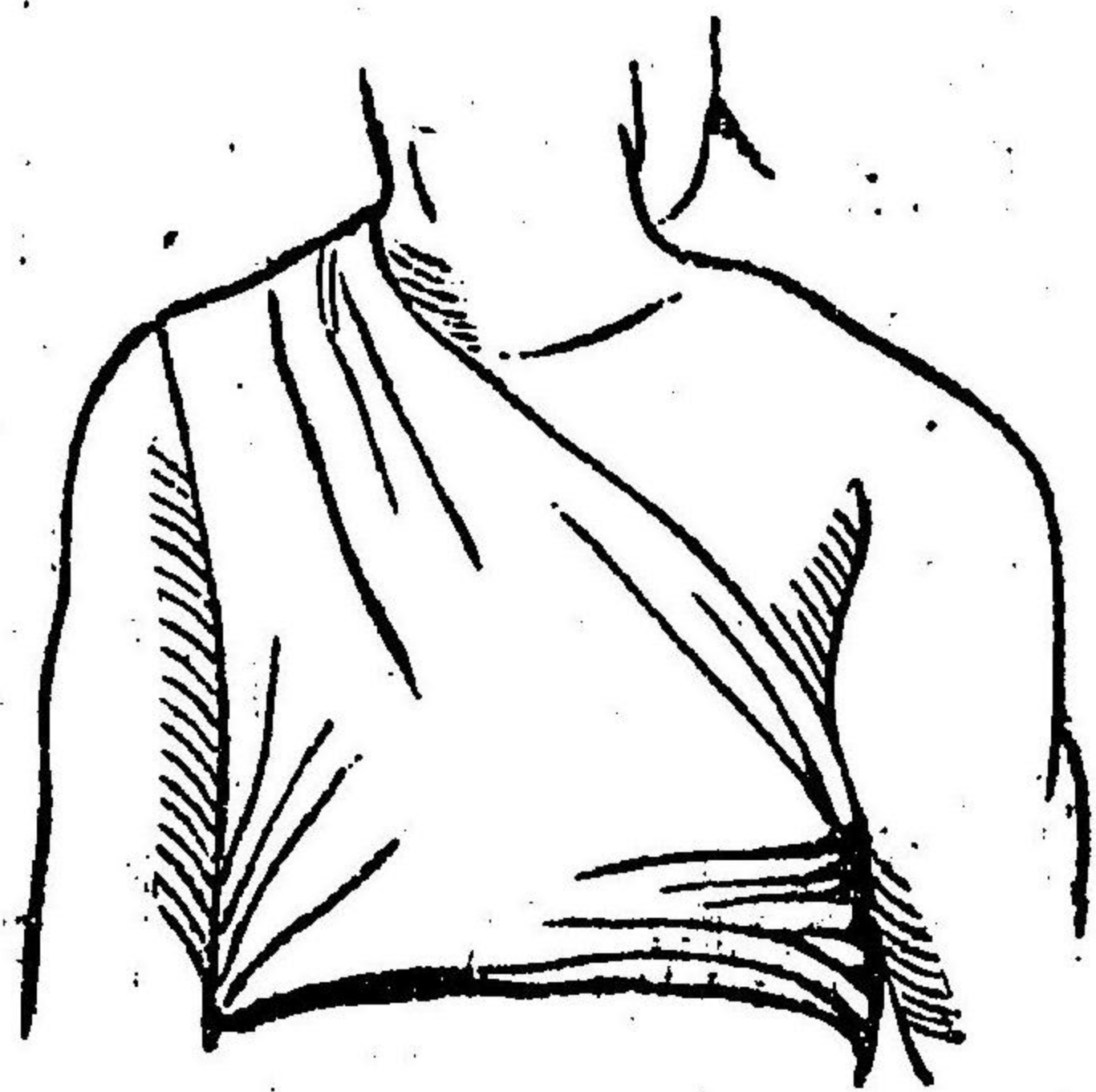
第十圖



第十圖



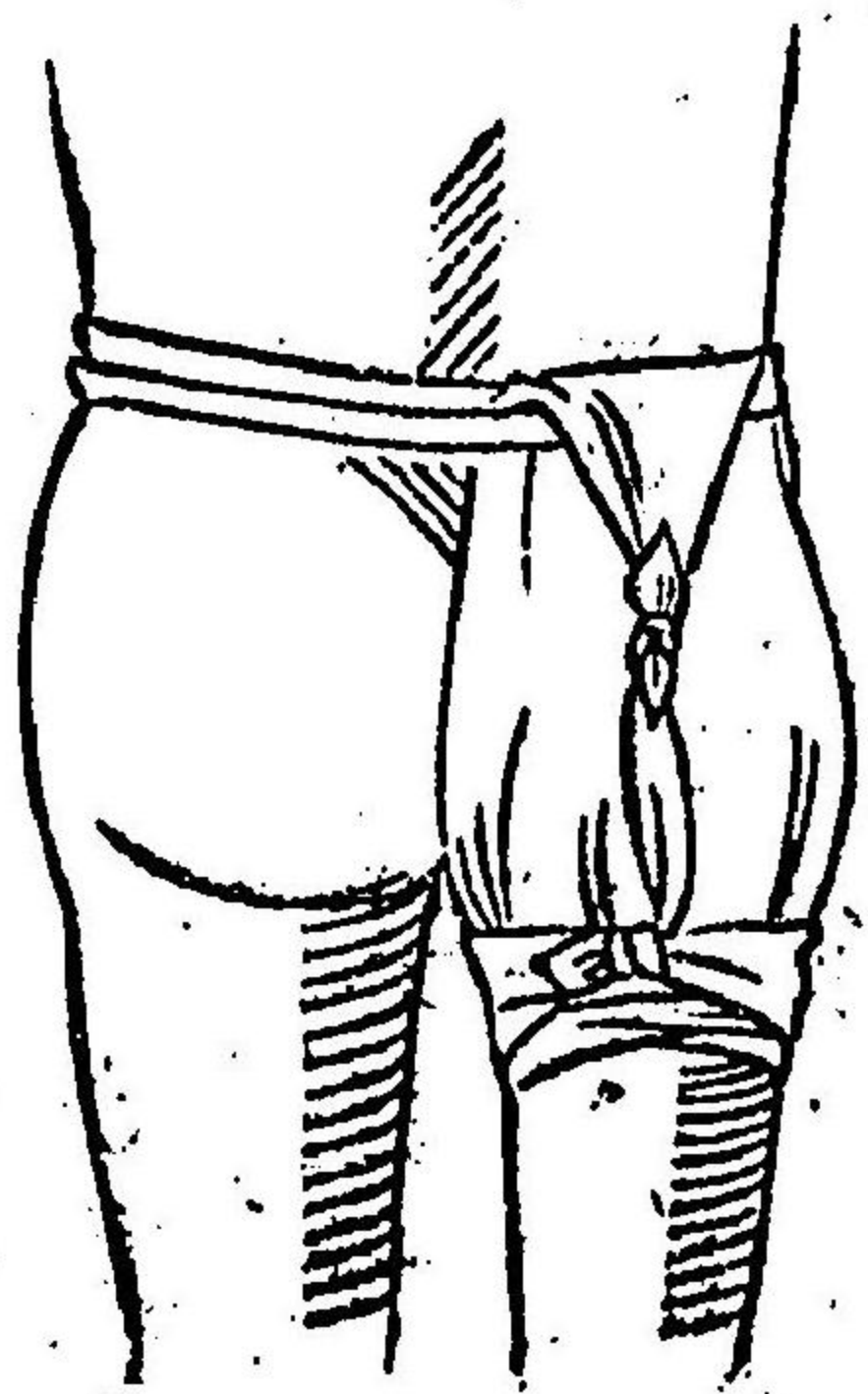
第二十圖



頭ノ頂ニ至リ巾ノ一端ト結ヒ合ハスヘシ(第九圖)
 胸ノ創ニハ巾ノ中央ヲ胸ニ當テ尖頂ハ創側ノ肩
 ヲ越サセテ後ニ引キ下縁ニテ胸ノ周圍ヲ纏ヒ
 (第十圖)兩端ヲ左右ノ腋ノ下
 ヨリ背ニ廻シテ結ヒ更ニ肩
 ノ後ニ垂レタル尖頂ト一端
 トヲ結フヘシ(第十一圖)
 背ノ創ノ卷方ハ胸ノ創ニ同
 シ唯後ヨリ掩ヒ前ニテ結フ

ヲ異ナリトス(第十二圖)

第三十圖



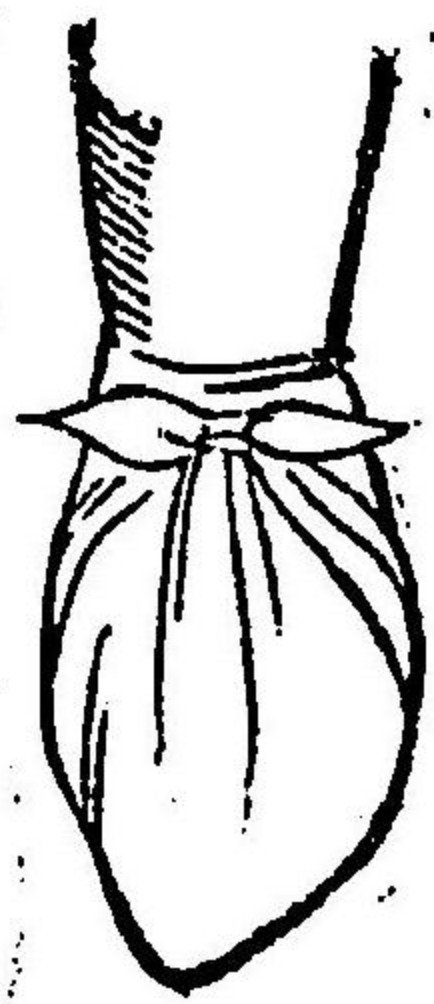
臀ノ創ヲ卷クハ尖頂ヲ上
 ニ向ケ下縁ニテ大腿ヲ纏
 ヒ後上ニ向ケタル尖端ヲ
 禪ノ紐(又ハ腰ノ周圍ニ
 結ヒタル劍帶等)ノ下ニ
 通シ折リ反シテ巾ノ一端ト結ヒ合ハスヘシ(第十

三圖)

肩ノ創ノ卷方ハ臀ノ創ニ同シ

上肢若ハ下肢ノ骨折レタルトキハ棒ノ類ヲ當テ
少クトモ二箇所ヲ結ヒ支フヘシ(第一圖及第八圖ノ六)

圖四十第



手ノ創ヲ卷クニハ三角巾ヲ二
ツニ折リ或ハ切りテ半巾トナ
シ其ノ下縁ヲ手首ノ方ニ向ケ
テ手ノ下ニ敷キ尖頂ヲ折リ反シテ手ヲ被ヒ次テ
兩端ヲ廻シテ手首ヲ纏ヒ結フヘシ(第十四圖)
上肢ヲ胸ノ前ニ吊ルニ開キタル三角巾ヲ用井ル
トキハ一端ヲ創ナキ方ノ肩ヲ越エサセ背ニ垂レ

圖五十第



圖六十第



置キ一端ヲ胸ノ前ニ垂レ創アル上肢ノ前膊ヲ巾

ノ中央ニ當テ尖頂ヲ肘ノ後ニ餘シ置クコト一、
二寸前ニ垂レタル端ヲ前膊ノ前ヨリ上ニ向ケテ

引キ創アル方ノ肩ノ上ニ送り頸ノ後ニテ背ニ垂
レタル端ト結フヘシ(第十五圖)

疊三角巾ニテ吊ルニハ兩端ヲ結ヒテ環トナシ結
ヒタル處ヲ頸ニ掛クヘシ(第十六圖)

足ノ創ノ卷方ハ手ノ創ト異ナルコトナシ

第三章 急病

其一 卒倒

第一五 背囊ヲ卸シ被服ノ束縛ヲ除キ空氣ノ流通

好キ處ニ臥サシムヘシ

室内ニテハ窓ヲ開キ室外ニテハ蔭アル地ヲ選フ
尋常臥サシムルニハ頭ヲ低クス顔赤キトキニ限
リ頭ヲ高クシ之ヲ冷ス

聲高ク喚ヒ醒マシ鼻ノ穴ヲ刺戟シ醋ノ如キ臭強
キモノヲ嗅カシメ顔胸ニ水ヲ灌キ額顛顛ニ火
酒ヲ塗リテ摩リ胸上肢下肢ヲ毛織ノ布ニテ心
ノ臍ノ方ニ向ケテ摩リ胸掌蹠ヲ刷毛ニテ擦ル

等場合ニ依リ試ミテ可ナリ

吐クトキハ頭ヲ横ニ向クヘシ

呼吸弱キトキハ第四章ニ示ス如ク人工呼吸法ヲ行フヘシ

醒メタルトキハ冷メタル湯茶又ハ水ヲ飲マシムヘシ

其二 火傷、電氣傷

第一六 人ヲ火ノ中ヨリ救ヒ出サントスルトキハ我衣袴ヲ濡シ頭ト頸トニ濡シタル巾ヲ纏フヘシ被服ノ燃ユル人ヲハ速ニ且靜ニ地ニ僵レシメ被服、寢具等ヲ以テ覆フヘシ

火傷(湯傷)電氣傷ハ徐ニ傷處ヲ露スヘシ衣片ノ皮ニ膠著シタル處ハ強テ引キ離サス剪ニテ周圍ヲ切り取ルヘシ

皮赤クナリタルノミナルトキハ水ニテ冷スヘシ水泡ヲ生シタルトキハ薄皮ヲ破ルコト勿レ

皮爛レタルトキハ「ガーゼ」ニテ掩ヒ繃帶スヘシ「ガーゼ」ナキトキハ新ナル布片ニ清潔ナル油ヲ

塗り掩フヘシ指ハ一本毎ニ繃帶スヘシ

其三 喝病

第一七

背囊ヲ卸シ被服ノ束縛ヲ解キ空氣ノ流通
好キ處ニ臥サシムヘシ臥サシムルニハ蔭アル地
ヲ選フヘシ

頭ヲ高クスヘシ

扇ノ類ニテ風ヲ送ルヘシ

顔ニ水ヲ灌キ濡シタル布片ニテ胸ヲ覆フヘシ

氷アラハ手拭ニ包ミ頭、胸ニ當ツヘシ

上肢、下肢ヲ摩ルヘシ

呼吸弱キトキハ第四章ニ示ス如ク人工呼吸法ヲ
行フヘシ

醒メタルトキハ冷メタル湯茶又ハ水ヲ飲マシメ

又醋ノ如キ強キ臭アル物ヲ嗅カシメ再ヒ失心ス

ルコトヲ防クヘシ

醒メテ忽チ眠ルモノハ生命危シ監視ヲ怠ルコト

勿レ

喝病起ルニ先タチ顔赤クナリ頭痛スルニ心附カ

ハ早ク喝病ノ處置ヲナスヘシ

其四 凍傷 トウシヤウ

第一八

豫防用ノ軟膏類アルトキハ鼻、耳、手ノ

指、足ノ趾ニ塗ルヘシ

紫色ニナリタル處ハ雪、氷若ハ冷水ヲ用井テ輕

ク永ク摩ルヘシ

水泡ヲ生シ又暗黒色ヲ呈スルトキハ處置火傷ト

同シ

其五 凍死 トウゴカシ

第一九

凍死ハ膚ノ色蒼ク上下肢、耳、鼻等強

クナリテ倒ル

凍死シタル人ノ體ハ折レ損シ易キカ故ニ觸レ動

スニハ温存ノ意アルヲ要ス

風ヲ受ケサル地又家屋アラハ冷ナル室ニ移スヘ

シ

被服ヲ除クヘシ

雪ニテ又ハ水ニ浸シタル布ニテ輕ク摩ルヘシ

體柔ナルニ至ラハ冷ナル寢具ノ上ニ移シ乾キタ

ル毛織物又ハ布片ノ類ヲ以テ全身ヲ摩ルヘシ

要スルトキハ第四章ニ示ス如ク人工呼吸法ヲ行

フヘシ

醒メタルトキハ微温ナル湯茶ヲ飲マシメ次テ酒

類ヲ飲マシムヘシ

寢具ヲ被フニハ次第ニ厚クシ室ヲ煖ムルニハ徐

ニ煖ムヘシ

其六 溺水

第二〇 被服ヲ除クヘシ

淨キ布片ヲ示指ニ纏ヒ口ト咽トノ泥土等ヲ撈ヒ

出スヘシ

次ニ腹ニ丸メタル被服ヲ當テ又ハ腹ヲ我膝ニ當

テテ俯サシメ掌ヲ溺者ノ額ニ當テテ首ヲ反ラセ

背ヲ打チ水ヲ吐カシムヘシ

體ヲ倒ニ吊ルハ不可ナリ

要スルトキハ第四章ニ示ス如ク人工呼吸法ヲ行

フヘシ

其七 窒息

第二一 室内ニ炭氣、瓦斯等溢レタルトキハ戸ヲ

開クヘシ要スルトキハ扉ヲ壞ツコトヲ得

瓦斯溢レタル室ニハ火ヲ携フヘカラス

井、窖、坑道ノ中ニ有害氣類アルトキハ布ノ類ヲ

振り動シ又ハ開キタル傘ニテ換氣ヲ圖ル等ノ手

段ヲ試ミルヲ要ス

差シ入レタル燭火ノ滅ユルハ尙有害氣類ノ殘レ

ル徴ナリ

救助ノ爲ニ之ニ入ルニハ醋ニ浸シタル布又ハ海

綿ヲ口ニ當テ救助索ヲ胸ト肩トニ結ヒ手ニ信號

索ヲ結ヒテ入ルヘシ

救ヒ出シタル人ヲハ通氣好キ處ニ置キ顔ト胸ト

ニ水ヲ灌キ又ハ水ニ浸シタル布片ヲ當ツヘシ

要スルトキハ第四章ニ示ス如ク人工呼吸法ヲ行

フヘシ

其八 埋没假死

第二三 埋没者ヲ救ヒ出サントスルトキハ土ノ再

ヒ崩ルルコトアルヲ慮ルヘシ

體ヲ動カストキ容易ニ知リ難キ處ノ骨折レタル

コトアルヲ慮リ温存ニ注意スヘシ

鼻、口、咽ノ土等ヲ除クヘシ

次テ第四章ニ示ス如ク人工呼吸法ヲ行フヘシ

其九 咬傷、螫傷

第二四 創ノ周圍ヲ輕ク壓シテ血ヲ出スヘシ

創ニ「ガーゼ」ヲ當テテ繃帶スヘシ

上下肢ヲ咬マレ又ハ螫サレタルトキハ創ヨリ心

ノ臟ニ近キ處ヲ括ルヘシ

其十 中毒

第二五 自ラ吐カサルトキハ指ノ尖若ハ羽ニテ咽

ヲ刺戟シ又多ク微温湯、鹽湯ヲ飲マセ吐ヲ促ス

ヘシ

生卵、牛乳、食用油「バター」若ハ湯茶ハ毒ヲ稀クス

ル功アリ但シ燐、斑猫ノ毒ニハ牛乳、油「バター」ヲ

禁ス

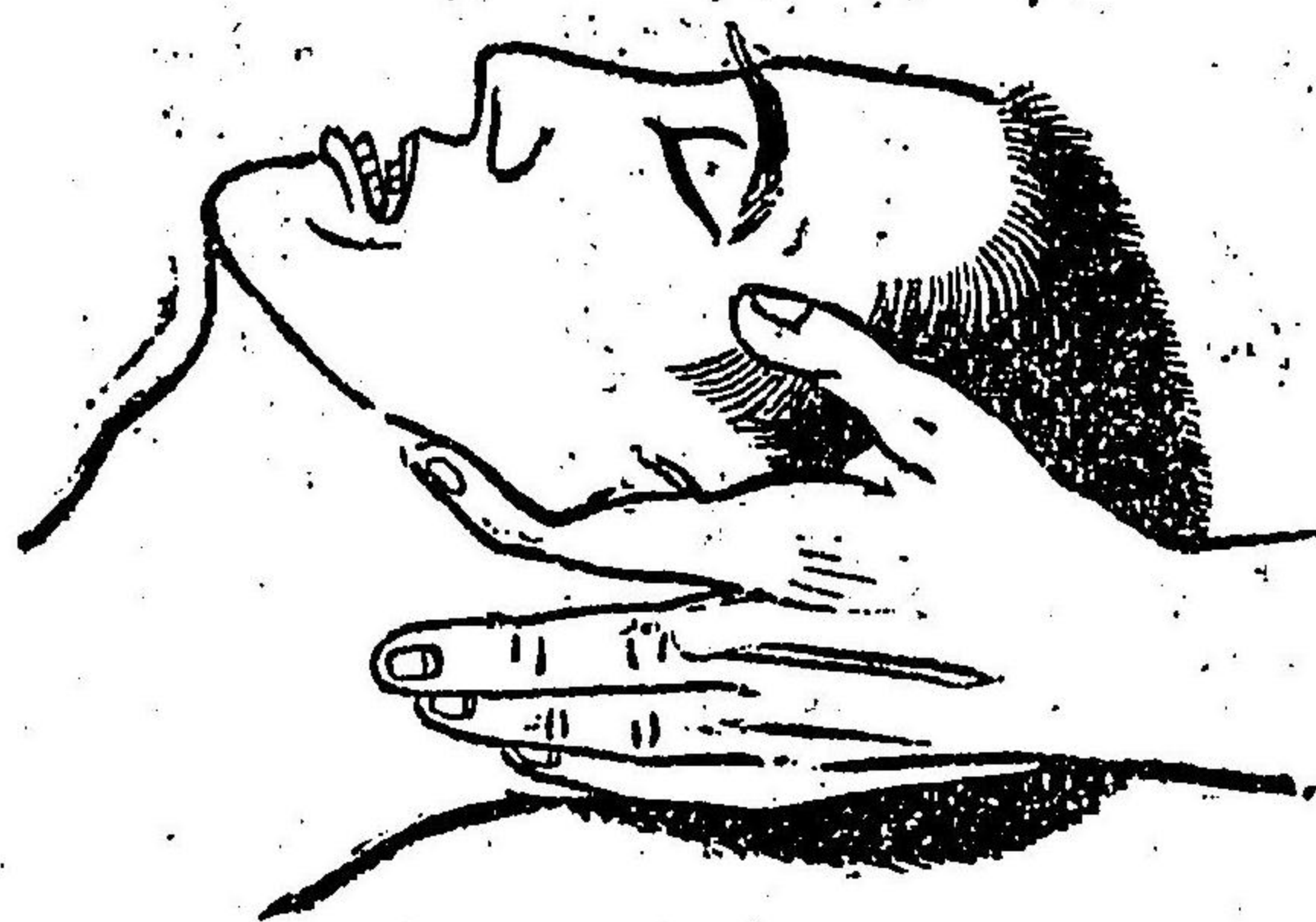
第四章 人工呼吸法

第二六 地ニ敷クヘキモノアラハ敷クヘシ

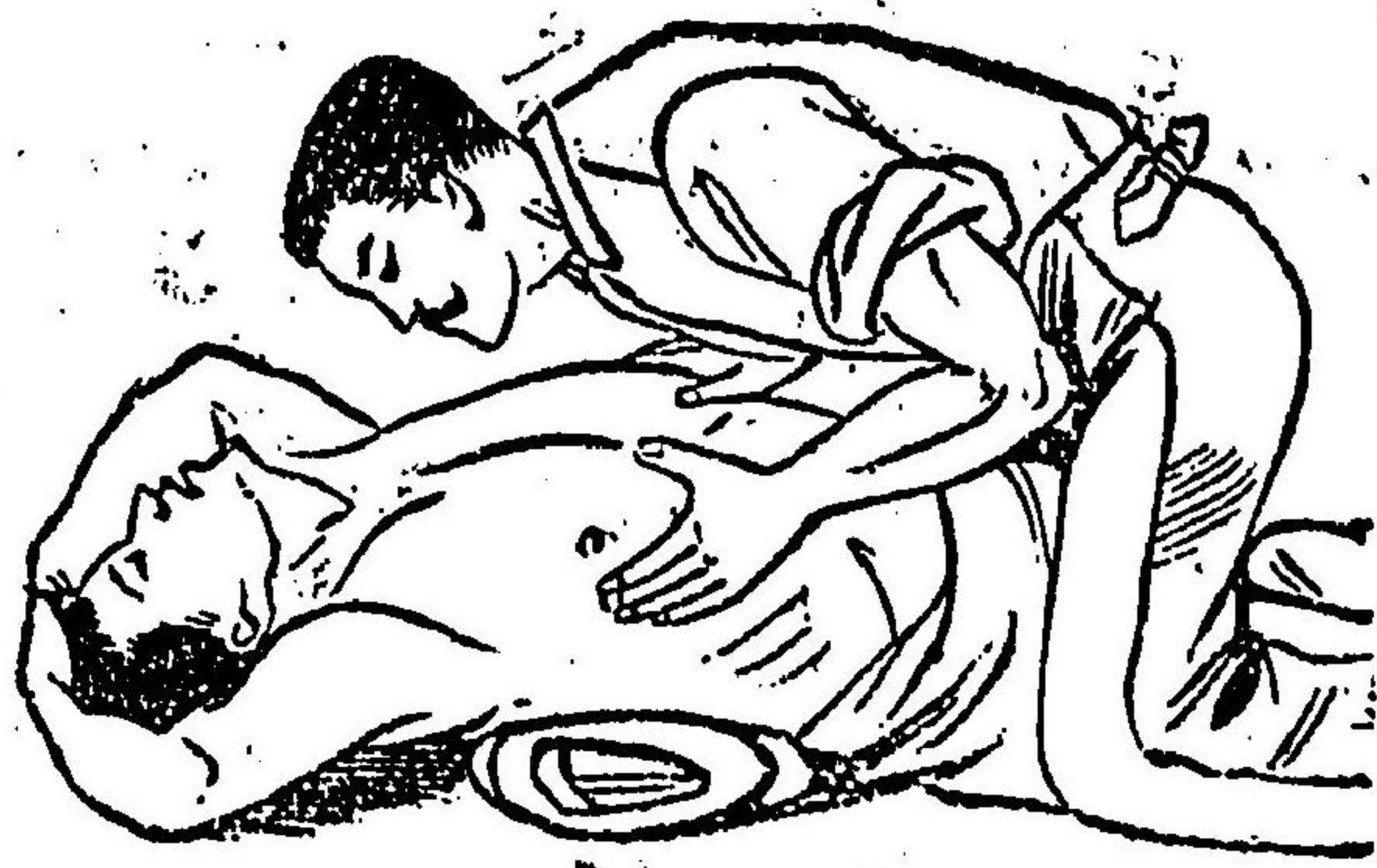
衣ヲ脱カセ袴ヲ開キテ仰キ臥サシメ被服ノ類ヲ

卷キタルヲ背ニ挿ミ胸ヲ高クシ頭ヲ低クスヘシ
 兩上肢ハ頭ノ上ニ頭ヲ押ヘタル形ニ置クヘシ

一ノ圖七十第



二ノ圖七十第



(第十七圖ノ二)

乙救助者アラハ頭ノ前ニ跪キ下顎ノ角ヲ推シテ
 下ノ齒列ヲシテ上ノ齒列ヨリ前ニ出テシムヘシ
 (第十七圖ノ一)

乙救助者ナクハ甲救助者舌ヲ引キ出シテ布片ニ
 テ頭ニ括リ附クヘシ又ハ絲ニテ舌ヲ縛リ絲ヲ項
 ニ廻シテ結ビ或ハ舌ヲ箸ノ如キ二本ノ棒ニテ挾
 ミ兩側ヲ縛リ棒ノ端ニテ頰ニ支ヘ口ヨリ出シ置
 クヘシ

甲救助者ハ假死者ノ腰ニ跨カリテ跪キ兩手ノ掌

チ開キ假死者ノ兩脇ノ下端ニ當テ自己ノ身ヲ伏
 セツツ肋ヲ絞ル様ニ壓スヘシ(第十七圖ノ二)
 暫クシテ甲救助者ハ急ニ身ヲ起シツツ兩手ヲ放
 ツヘシ
 此ノ動作ハ間ヲ置キテ反覆スルコト凡一分間ニ
 十六度ナルヘシ
 又此ノ動作ハ假死者自ラ息スルニ至ル迄續クヘ
 シ時トシテハ一時間以上續ケテ功アルコトアリ
 早ク見捨ツヘカラス

第二編

衛生法大意

第一章

傳染病ノ豫防

第二七

傳染病ハ創ノ癒ユルヲ妨クル病原菌ト似
 タル種々ノ小サキ生物アリテ體ニ入ルニ由リテ

起ル豫防法トハ此ノ生物ヲ體ニ入ラシメサル法
 ナリ

第二八

傳染病ヲ豫防スルニハ清潔ヲ保持スヘシ

室、被服、寢具及身體ハ清潔ニ保持スルヲ要ス
 殊ニ手ヲ屢洗フヘシ

人ノ手拭ヲ借ルコト勿レ

人ノ寢具ヲ著ルトキハ顔 頸ニ當タル處ニ手拭

ヲ被フヘシ

第二九 咳アル人ニ近ツキテ呼吸スルハ危シ

塵ヲ起スハ危シ

第三〇 飲食物ニ非サルモノヲ口ニ入ルルコト勿

レ書ヲ讀ムトキ指ヲ舐リ鉛筆、毛筆ノ軸等ヲ口

ニ入ルルハ危シ

指ニテ目ヲ摩ルコト勿レ

第三一 水ハ成ルヘク飲ムコト少キヲ可トス

十分ニ煮タル湯茶ハ害ナシ

一旦煮タル湯茶モ淨メサル器ニ盛り又ハ掩ハサ

ル器ニ盛りテ時ヲ經ルトキハ危シ

生牛乳ヲ飲ムヘカラス

第三二 食物ハ十分ニ煮タルモノヲ可トス

第三三 蠅ノ止マリタル飲食物ヲ飲食スルコト勿

レ

蠅ハ努メテ撲チ殺スヘシ

第三四

腐リタル疑アル飲食物ヲ飲食スルコト勿

獸肉ハ腐ルトキ色變リ指ニテ壓ストキ指ノ痕ヲ

留ム

魚ハ腐ルトキ目濁ル

總テ肉類ハ腐ルコト甚シキトキ臭アリ

腐リタル肉ノ毒ハ煮テモ滅セサルコトアリ

米ニ黴ヲ生シタルハ危シ

粉ハ握リテ放ツトキ直ニ散セサルヲ腐リタル徵

トス

第三五 室内ノ通氣ヲ好クスヘシ

泥靴ヲ室内ニ入ルヘカラス

室ノ内外、人ノ手ノ多ク觸ルル箇所ハ病原菌ノ

著キ居ル虞アリ

第三六 乾カスコトハ豫防ノ功アリ

被服、寢具、陣營具、私物、室内總テ乾キ居ルコト

ニ注意スヘシ

第二章 傳染病ノ種類

其一 虎列刺

第三七

虎列刺ノ病原菌ハ吐キタル物、下シタル

物ノ中ニアリ

此ノ菌ハ水、飲食物ニ雜リテ腹ニ入ル

又指其ノ外ノ物ニ附キ居リテ口ヨリ入ルコトアリ

リ

患者ニ近ツキ又患者ニ非サレトモ患者ノ傍ニア

リシ爲病原菌ヲ宿シ居ル人ニ近ツクハ危シ

生ノ野菜、熟セサル果ノ類ヲ食フトキハ虎列刺

ニナリ易シ

第三八 虎列刺ニナリタル人ハ腹痛マスシテ下シ

次テ吐ク

下ス物後ニハ米ヲ淘キタル汁ノ如クナル

幾モナク目窪ミ目ノ縁ニ鉛色ノ暈ヲ生シ鼻尖リ

聲嘎レ膚冷ニナリテ撮ミ上クレハ膿ヲナシ故ニ

復ラス

渴甚シ

小便少シ

腓腸痛ム

其二 赤痢

第二九

赤痢ノ病原ハ菌ト菌ニ非サル小サキ生物

トノ二種アレト何レモ下シタル物ノ中ニアリ

此ノ病原モ水 飲食物ニ雜リテ腹ニ入ル

又指其ノ外ノ物ニ附キ居リテ口ヨリ入ルコトア

リ

患者ニ近ツキ又患者ニ非サレトモ患者ノ傍ニア

リシ爲病原ヲ宿シ居ル人ニ近ツクハ危シ

生ノ野菜 熟セサル果ノ類ヲ食フトキハ赤痢ニ

ナリ易シ

第四〇

赤痢ニナリタル人ハ腹劇シク痛ミテ下シ

下シタル後忽チ又腹絞リテ下サントス下ス分量

ハ次第ニ少クナル

下ス物後ニハ糊ノ如クナリ血ヲ雜フ

赤痢ハ一タヒ治シテモ再發シ易シ

其三 腸窒扶私

51 第四一

腸窒扶私ノ病原菌ハ大小便ノ中ニアリ

此ノ菌モ水、飲食物ニ雜リテ腹ニ入ル
又指其ノ外ノ物ニ附キ居リテ口ヨリ入ルコトア

患者ノ病已ニ治シテ尙菌ヲ宿シ居ルモノ又患者
ニ非サレトモ患者ノ傍ニアリシ爲菌ヲ宿シ居ル
人ニ近ツクハ危シ

第四二 腸窒扶私ニナリタル人ハ熱アリテ約四週

間續ク
熱ノ爲精神鈍クナリ譫語ヲ言ヒ甚シキハ狂人ノ

如キ舉動ヲナスコトアリ

胸、腹、背ニ細キ桃色ノ疹ヲ生ス

其四 「ペスト」

第四三 「ペスト」ノ病原菌ハ此ノ病アル鼠ノ糞、

溺、患者ノ腫物ノ膿、大小便ノ中ニアリ

病胸ニ附キタルトキハ咳ニテ飛ヒ出ツル痰ノ集

ニ菌アリ

菌ハ皮ノ小サキ創ヨリ入ル

蚤ニ菌アリテ此ノ病ヲ傳フルコトアリ

痰ノ雫ニ菌アルトキハ息ニテ吸ヒ込ム
鼠ヲ狩リ取ルヘシ死シタル鼠ヲ見出ストキハ手
ヲ觸レスシテ衛生部員ニ告クヘシ

第四四 「ペスト」ニナリタル人ハ菌ノ入りタル創

ヨリ心ノ臓ニ近キ處ニ腫物ヲ生ス

熱アリテ顔赤ク歩ムニヨロメキ醉ヒタル人ニ似

タリ

病胸ニ附キタルトキハ咳アリテ痰ニ血ヲ雜フ

第四五 以上四病ニ痘瘡、發疹、窒扶私、猩紅熱、實

扶的里ヲ加ヘタルモノヲ法律ニテ傳染病ト定ム

其五 麻刺里亞

第四六 麻刺里亞ハ世ニ謂フ瘡ナリ其ノ病原タル

小サキ生物ハ血ニ在リ蚊ノ一種患者ノ血ヲ吸ヒ

居リテ他ノ人ヲ螫ストキ傳染ス

此ノ病ヲ避クルニハ蚊ニ螫サレサルヤウニスヘ

シ

「キニーネ」ト云フ藥ヲ服シ居レハ蚊ニ螫サレテ
モ病起ラサルコトアリ

第四七

麻刺里亞ニナリタル人ハ時ヲ隔テテ熱ヲ

發ス熱ノ前ニハ寒ヲ覺エテ體震ヒ熱ノ後ニハ汗

出ツ

病ムコト久シキトキハ色蒼クナル

其六 結核

第四八

結核ノ胸ニ附キタルハ世ニ謂フ肺病ナリ

其ノ病原菌ハ患者ノ痰、同シ病アル牝牛ノ乳汁

ニアリ

患者「ハンカチーフ」ヲ口ニ當テスシテ咳ヲナス

第四九

結核ニナリタルトキハ色蒼クナリ咳出テ

トキハ痰ノ雫飛ヒ出ツ向ヒ合ヒタル人之ヲ息ニ
テ吸ヒ込ミ傳染スルコトアリ
痰乾キテ塵ニ雜リ又物ニ乾キ附キ居ルヲ口ニ入
ルルトキ此ノ病ニナルヲ常トス指、食器等ニテ
口ニ入ルルコト多シ
此ノ病アル牝牛ノ乳ヲ生ニテ飲ムトキモ此ノ病
ニナル菌ハ咽ヨリ頸ノ腺ニ入り居リ、ソレヨリ
血ニ入りテ胸ニ附ク

腹ヲ下シ熱出ツル等ノ徴アリ
久シクナレハ痰ニ血ヲ雜ヘ又血ノミヲ略ク
後ニハ熱日日出テ寢汗出ツ

其七 花柳病

第五〇 花柳病ハ淋病、下疳、梅毒ノ三種アリ

第五一 淋病、下疳ノ病原菌ハ此ノ病ノ附キ居ル

處ヨリ出ツル汁ニアリ

患者ト性交ヲナストキ傳染スルヲ例トス

病、目ニ附キ居ルトキハ目ヨリモ傳染ス

第五二 梅毒ノ病原菌ハ患者ノ全身ニアリ

患者ト性交ヲナストキ傳染スルヲ例トス

菌ハ患者ノ唾ニモアリ疹ニモアルカ故ニ患者ニ

觸レタルノミニテモ傳染スルコトアリ

親ヨリ子ニ傳フ

第五三 壯年ノ人久シク性交ヲ斷チ居ルトキハ健

康ヲ害スト云フモノアレトモ誤チリ信スヘカラ

ス

第五四 「トラホーム」ノ病原菌ハ患者ノ目ヨリ出

ツル汁ニアリ

指、手拭、洗面器、被服、寝具等ニテ傳染ス

人ノ手拭ヲ借ラサルハ勿論、私物ノ洗面器ヲモ

持チ居ルヲ利アリトス

水管ヨリ流レ出ツル水ヲ掌ニ承ケテ洗面スルト

キハ傳染ノ虞ナシ

第五五 「トラホーム」ハ衛生部員ナラテハ他ノ眼

病ト別チ難シ

第三章 雜件

第五六 眠ルコトヲ許サルル時間ニ八十分ニ眠ル

ヘシ

第五七 靴傷ヲ防ク爲足ト靴下トヲ清潔ニ保持ス

ヘシ

靴ハ脂ヲ塗リテ軟ナラシムヘシ

豫防用ノ軟膏類アルトキハ行軍ニ先タチテ足ニ

塗ルヘシ

靴下ニ皺ナカラシメ縫目ヲ外ニシテ穿クヘシ

靴ヲ穿クトキ底革、後革ヲ卷キ込ムコト勿レ

靴紐ヲ締ムルコト緊キニ過クルコト勿レ

休止ノ時又ハ宿營ニ就キタル時ハ足、殊ニ足ノ

趾ノ間ヲ洗フヘシ濡レタル靴下ハ穿キ換フヘシ

皮赤クナリタルトキハ水ニテ冷シ又ハ火酒ヲ塗

リテ功アリ

第五八 鞍傷ヲ防ク爲臀及太腿ノ内面ハ清潔ニ保

持スヘシ

袴下ハ乾キタル者ヲ用井鞍ニ接スル部ハ皺ナカ

ラシムヘシ

皮赤クナリタルトキノ處置ハ靴傷ニ同シ

第五九 寒キ時ノ休止ニハ耳、手ヲ擦リ足踏スヘ

シ

寒地ニテ寒甚シク凍沍假死ノ虞アルハ多クハ氣

温ノ低キニ因ラスシテ風アルニ因ル故ニ風ヲ障

フル處ヲ求メ又ハ作りテ静止スヘシ此ノ如キ時

ニハ足踏等ハ功ナシ

寒甚シキトキハ金屬ニ觸レテ傷ヲ受クル虞アリ

第六〇

熱地ニテ喝病ノ虞アルハ氣溫ノ高キ爲ノ

ミニアラスシテ空氣濕ヒ風ナキニ因ル此ノ如キ

場合ニ劇動ヲ要スルトキハ特ニ喝病ニ對シテ注

意スヘシ

麻刺里亞ヲ傳フル蚊ハ三百乃至四百歩以外ニ飛

ヒ行カサルヲ例トス故ニ麻刺里亞ニナリ居ル土

人ノ家屋ヲ稍離ルルトキハ傳染ヲ免ル

明治四十一年十二月十八日印刷
明治四十一年十二月廿六日發行

定價金四錢

郵税金二錢

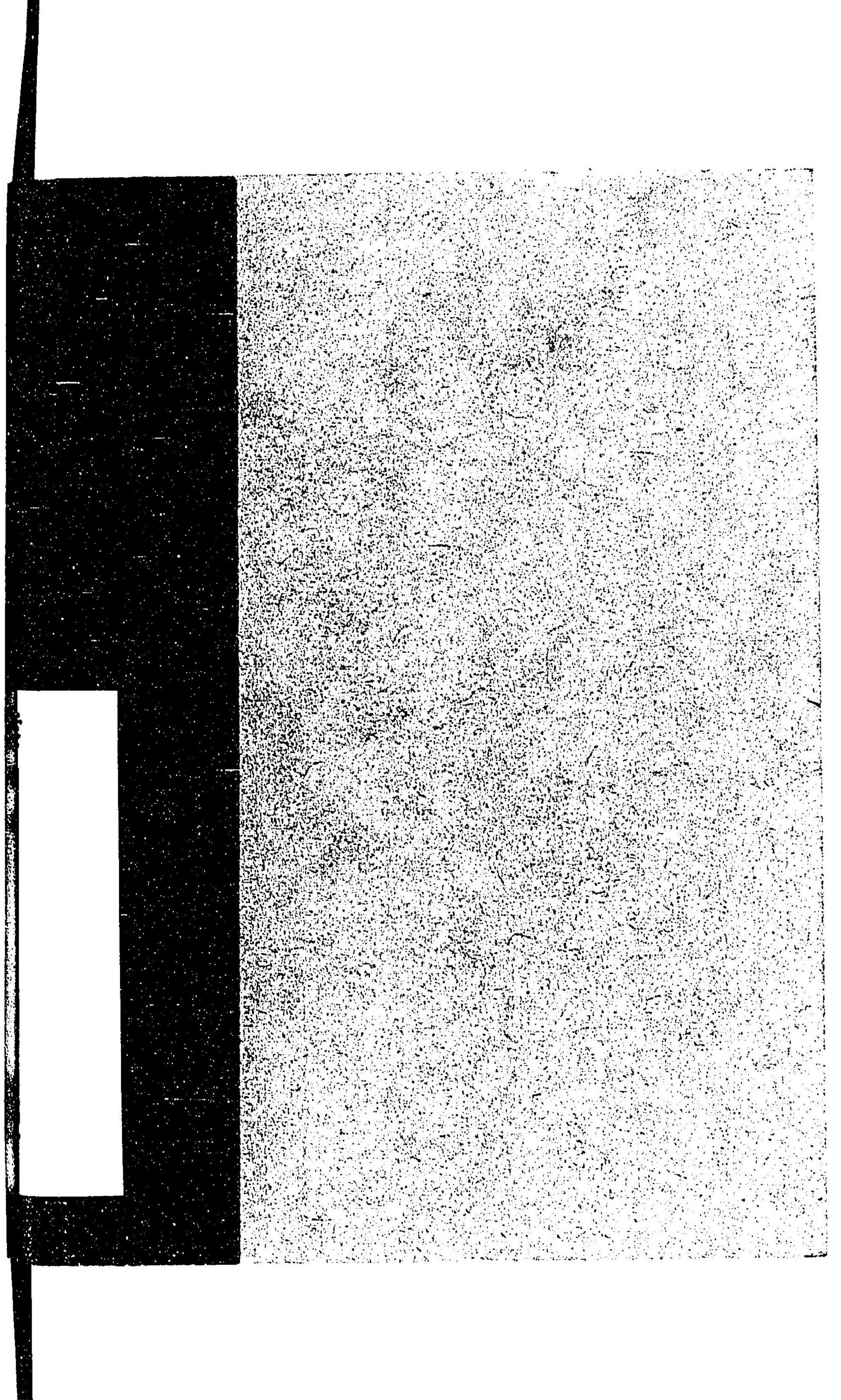
發行所 東京市四谷區市ヶ谷片町十二番地
軍事教育會

編輯者 兼 東京市四谷區市ヶ谷片町十二番地
高橋 靜 虎

印刷者 東京市麴町區飯田町二十目六十八番地
遠 藤 廉 治

印刷所 東京市麴町區飯田町二十目六十八番地
公 木 社





特 53

271

傍訓救急法及衛生法大意

森 林太郎

国立国会図書館

058790-000-2

特53-271

傍訓救急法及衛生法大意

軍事教育会

M41

CBC-0348

